

はじめに

吹田市立博物館では、博物館をめぐる社会情勢や行政・財政面での変化に対応しながら、より充実した博物館活動への改善に取り組むため、下記の使命を掲げ、平成 22 年度（2010 年度）に第 1 次となる中長期計画を開始し、平成 27 年度（2015 年度）からは、第 2 次中長期計画を推進してきた。

第 2 次中長期計画は令和元年度（2019 年度）に終了となり、今後も 5 年間という中期的な期間をもって計画的に事業を進めることが不可欠であると判断するところであり、これまでの 10 年間の博物館を取り巻く状況や中長期計画の達成度などを勘案しながら、令和 2～6 年度（2020～2024 年度）の中期計画を策定する。この間の各年度において自己評価を行い、外部評価を受けることで、さらなる事業改善へ繋げていくものとする。

【当館の使命】

① 地域の文化を継承し、発信拠点となること

地域の文化に関する歴史資料等を調査研究し、市民の共有財産として次世代に継承します。このような情報を展示、普及活動等により発信することで市民の生涯学習活動を支援し、地域の文化を発見、見直し、創造していきます。

② 市民が参加し、市民文化の向上に寄与すること

市民の視点に立ち、市民が集い、多様な体験を活かしながら博物館活動へ主体的に参加できる博物館とします。また、ボランティアをはじめとする博物館サポーターにより、学校教育や地域住民等との連携を深め市民生活を豊かな潤いのあるものとします。

1. 第 2 次中期計画【平成 27 年（2015 年）～令和元年（2019 年）】の総括

第 2 次中期計画では、①資料の収集と保管 ②調査研究 ③展示 ④地域学習の拠点 ⑤市民参画 ⑥情報発信 ⑦学校教育との連携 ⑧社会貢献 ⑨施設の維持・管理の 9 つの大項目の目標を立て、事業を進めてきた（末尾別表参照）。大項目についてそれぞれ成果と課題を総括する。

① 資料の収集と保管

資料の収集については、この 5 年間における最大の成果は、長年の懸案であった収蔵庫の増設完了と、合わせて西村公朝資料の寄贈・寄託を受けたことである。西村資料は今後の展示事業を中心とした活用や西村資料研究の拠点として当館の事業の大きな柱となっていくものである。

一方、資料データベースの構築はほとんど進展しなかった。事業の根本的な見直しが大きな課題である。

②調査研究

特別展、企画展に関する調査研究は着実に実施し、展示や研究成果の公表により一定の成果を上げられた。しかし、地域資料調査やその他の調査研究においては、外部評価に指摘されたとおり、目標設定と計画的な実施が今後の課題である。

③展示

常設展示については、「さわるコーナー」を常設化し、「さわる資料」も少しずつではあるが、追加・更新を行った。大規模リニューアル計画は進展しなかったが、開館 30 周年（2022 年度）の実施に向けて、「さわるコーナー」のさらなる充実、紫金山公園との一体化した展示と絡めて計画を進めていきたい。

企画展示では5年先までの中期計画を提示し、概ね計画通りに実施した。展示目標もほぼ達成されたが、今後も市民ニーズを考慮し、分野のバランスとれた多様なテーマで実施していきたい。また、西村資料の展示活用の中にも利用する特別展示室の拡幅は市への実施計画を提出しているものの、実施には至っていない。

④地域学習の拠点

教育普及事業はこの5年間も積極的に取り組み、多くの講演会、講座、体験学習、などを実施した。また、外部機関・団体の講演会・講座等への講師も多数派遣した。

地域の文化拠点としては、北大阪7市3町の56施設のミュージアムで構成される北大阪ミュージアム・ネットワークにおいては、北大阪ミュージアムメッセも地域への浸透も進み、事業効果も表れてきたところであり、会長館として連携強化を進めてきた。

レファレンスサービスや特別利用については一定の利用をみたが、積極的な利用を促進するには至っていない。資料の活用という面からも利用増加への方策を立てる必要がある。

⑤市民参画

展示に関するアンケートを実施、分析したが、十分に活動に反映させるには至っていない。設問の見直しを含め、市民ニーズの把握に努めたい。

市民との連携事業は、夏季展示実行委員会をはじめ、地元の団体、サークル、NPOの協力による普及事業を充実させた。今後は展示内容のさらなる充実が望まれる。

ボランティア活動については学校教育連携展示「むかしのくらしと学校」において積極的な活動が展開され、喫茶サービスも当館にとって欠かせないものとなっている。特に学校教育連携展示に関わるボランティアは自身の成長もあり、同展の企画運営に大きく関わるようになってきた。今後は高齢化と組織継続が課題となる。

⑥情報発信

ホームページは見やすさ、わかりやすさを意識し、コンテンツの改良を行ってきた。アクセス数の伸びも見られた。また、市公式Facebookへの投稿を開始した。少なくとも週1回の投稿を実施した。ただ、その効果はまだ十分とは言えず、今後、ソーシャルメディアによる情報発信の工夫が必要である。

⑦学校教育との連携

学校の博物館利用は小学校3年生の社会科見学は堅調で、「むかしのくらしと学校」展は、出前授業と合わせて市内のほぼ全校が利用し学校から高い評価を得ている。中学校では、職場体験の受け入れと歴史教材の提供が主であるが、一部の学校とは教諭と連携してプログラムを組み立て、博物館で授業を行うことも実施した。また、学校の博物館利用へつながるよう市内の小中学校教諭を対象に現地見学を盛り込んだ吹田の歴史を学ぶ教員研修を実施したが、今後とも学校側と連携を取りながら、博物館利用について検討していく必要がある。

吹田高校と高博連携を締結しているが、高校側のカリキュラム変更により授業協力がなくなっ

⑧社会貢献

人材育成として、大学博物館実習、JICAの博物館学コース研修員、学芸員インターンシップを継続して受入れ、さまざまな人材育成での貢献を果たした。

⑨施設の維持・管理

施設の維持管理については、展示機器に関する定期点検は確実に実施しているが、築30年近く

を経過し、老朽化への対策が課題である。市の施設最適化計画に合わせながら対応していきたい。

名神高速道路の吹田サービスエリアのアクセス道路と紫金山公園ビジターセンターの建設に関しては進展をしなかったが、引き続き取り組んでいく課題である。

2. 第3次中期計画【令和2年（2020年）～令和6年（2024年）】

第2次中期計画の総括を踏まえた上、館内で数回にわたる協議を重ねて第3次中期計画案をまとめた（別紙一覧表）。第3次中期計画では、第2次中期計画からの継続性を考慮しながら計画の見直し、整理を行い、使命に基づく次の4つの大項目で活動目標を設定し、それらが包含する事業を中事業、小事業とした。また、今後5年間で重点的に取り組む事業として「重点項目」を定め、博物館としての基本的、経常的な事業を「基本事業」と位置付けた。

《大項目1》地域の歴史・文化・自然遺産を守り、未来へ伝える博物館

地域の歴史と文化に関して調査研究を推進し、吹田市に残された大切な歴史・文化・自然遺産などの地域の文化に関する資料を継続的に収集、整理し、市民共有の知的資産として未来にも利用できるように保管管理します。

《大項目2》地域文化の情報発信拠点としての博物館

地域の歴史と文化を紹介する常設展示と、幅広い利用者層が楽しみ、参加、体験できる企画展示により市民の多様な学習活動に応じるとともに、市民の多様な自主的学習を支援するための生涯学習の拠点とします。さらに博物館の情報公開性を高め、地域文化に関する資料や博物館運営に関する情報を迅速に発信します。

《大項目3》市民と協働し、ともに活動する博物館

市民が主体的に博物館の活動に参加できる市民参画を推進します。市民の視点に立ち、市民が集い、市民の参加を得て、要望や実態を反映させる、市民とともに活動する博物館をめざします。

《大項目4》社会とともに歩む博物館

博物館のもつ高い専門性や豊かな情報を社会に還元することで、地域のイメージアップや学芸員と市民の相互のスキルアップにつなげ、博物館活動にフィードバックさせます。また、学校の利用を促進するため、小中高校の教職員と連携や利用プログラムの開発を行い、子どもたちが博物館に親しむ機会を増やします。

3. 事業評価について

第3次中期計画においては、次のとおり事業評価を行うものとする。

① 事業評価の目的

使命・目標を実現するべく計画された中期計画についてその計画の達成の度合いや成果を点検し、評価することで継続的に運営の改善を図り、博物館活動の向上を目指すことを目的とする。

② 事業評価の方針について

事業評価については、次のとおり事業評価を行うものとする。

- ・博物館の事業評価は年度ごとに行う。
- ・博物館の自己評価は、中期計画に定めた「評価指標」と「評価の視点」に拠りながら小項目ごとに行う。併せて重点項目を中心に大項目ごとの評価も行う。

- ・外部評価については、重点項目を中心とし、大項目ごとに行う。

③ 外部評価の評価者

外部評価は博物館協議会において行う。

④ 評価基準について

自己評価、外部評価とも AAA～B の 4 段階で評価する。各段階の評価の目安は以下のとおり。

【4 段階評価の判断基準】

AAA・・・突出して大幅に進捗した。また、特筆すべき業績があった。

AA・・・目標・指標等に照らして想定以上に達成できた。

A・・・目標・指標等に照らして達成できた。概ね順調に計画が進んでいる。

B・・・目標・指標等は達成できなかった。進捗していない。

第3次中期計画(令和2～6年度)

【使命①】地域の文化を継承し、発信拠点となること

地域の文化に関する歴史資料等を調査研究し、市民の共有財産として次世代に継承します。このような情報を展示、普及活動等により発信することで市民の生涯学習活動を支援し、地域の文化を発見、見直し、創造していきます。

*重)は5年間で重点的に取り組む項目
*基)は博物館の基本的に行うべき項目

1. 地域の歴史・文化・自然遺産を守り、未来へ伝える博物館

目標	吹田市に残された大切な歴史・文化・自然遺産などの地域の文化に関する資料を継続的に収集、整理し、市民共有の知的資産として未来にも利用できるように保管管理します。また、地域の歴史と文化に関して調査研究を推進し、その研究成果が市民の知的財産として活用されるようにします。
----	--

①資料の収集・保管・活用

中期活動項目・内容		評価指標	自己評価の視点	外部評価
重)	a.データベースの構築 資料のデジタル化を進め、資料データベースの構築・公開を目指す。	データベース構築の進捗度	■ 資料データベースの公開に向けて準備は進んでいるか。	* 重点項目を主にして評価 * 自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
基)	b.資料の収集 重点収集資料を中心に資料収集を進める。重点収集資料は博覧会関係資料、大坂画壇関係資料、ニュータウン関係資料、窯業関係資料をとす。	新規収集資料点数 新規重点収集資料点数	■ 収集方針に基づいた資料収集を行い、適切に整理・登録を行っているか。	
基)	c.収蔵環境の維持 良好な資料収蔵環境を維持し、万全な資料保存を図る。	資料燻蒸回数(2回/年) 収蔵庫燻蒸回数(1回/3年) 環境調査回数(2回/年)	■ 指標に基づいて実施しているか。 ■ 館内の収蔵環境は良好に保たれているか。	
基)	d.収蔵資料の活用 特別利用や館外貸出による収蔵資料の活用を促進する。また、展示事業において積極的に活用を図る。	特別利用件数 (過去5年間の平均値) 館外貸出件数 (過去5年間の平均値)	■ 資料の活用は進んでいるか。	

②調査研究

基)	a.地域史に関する調査研究 基礎的な地域研究を行うとともに、計画的・積極的な資料所在調査と整理を進め、保存へ繋げていく。	基礎的調査研究件数 (過去5年間の平均値) 資料所在調査件数 (過去5年間の平均値)	■ 館の調査研究計画を策定しているか。 ■ 調査研究成果が事業に反映されているか。 ■ 調査研究成果は公表されているか。	* 重点項目を主にして評価 * 自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
基)	b.博物館運営に関する調査研究 博物館学や博物館マネジメントに関する研究を行う。	調査研究件数 (過去5年間の平均値)	■ 館の調査研究計画を策定しているか。 ■ 調査研究成果が事業に反映されているか。 ■ 調査研究成果は公表されているか。	

基)	c.学芸研究会 学芸員の相互理解とスキルアップのため、学芸研究会を実施する。	学芸研究会実施回数(2回/年)	■ 指標に基づいて実施しているか。 ■ 学芸員のスキルアップにつながっているか。	
2. 地域文化の情報発信拠点としての博物館				
目標	地域の歴史と文化を紹介する常設展示と幅広い利用者層が楽しみ、参加、体験できる企画展示により市民の多様な学習活動に応じるとともに、市民の多様な自主的学習を支援するための生涯学習の拠点とします。また、地域の文化の情報拠点の役割を担い、他の博物館、文化施設とも広く連携を図ります。そのため、博物館の情報公開性を高め、地域文化に関する資料や博物館運営に関する情報を迅速に発信公開します。			
①常設展示				
	中期活動項目・内容	評価指標	自己評価の視点	外部評価
重)	a.リニューアル 開館30周年（2022年）にリニューアルを実施する。	リニューアル計画の進捗度	■ 年次計画に基づき、リニューアル計画は進んでいるか。	* 重点項目を主にして評価 * 自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
重)	b.さわる展示 常設化した「さわるコーナー」をリニューアルに合わせて、さらに充実させる。	「さわる月間」の開催（1回/年） 展示更新件数	■ 「さわる月間」を実施したか。 ■ 「さわるコーナー」に新規の資料は追加されたか。	
基)	c.常設展示の改善・充実 新資料の追加、研究成果の反映、展示技法の改善などにより分かりやすい展示へと充実を図る。	展示更新件数 観覧者の満足度	■ 最新の情報を取り入れた展示になっているか。 ■ アンケートの分析はなされているか。	
②企画				
重)	a.企画展示の開催 a-1. 春季特別展 a-2. 企画展 a-3. 夏季展示 a-4. 博物館実習展 a-5. 秋季特別展 a-6. 特別企画	展示目標の達成度	■ 展示目標は達成できているか。 ■ 調査成果は反映されているか。 ■ アンケートの分析はなされているか。	* 重点項目を主にして評価 * 自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
重)	b.西村公朝資料の展示と活用 西村公朝資料の資料活用として定期的な展示を実施する。また、西村公朝資料の活用を図るため、特別展示室を増設する。	展覧会実施回数(1回/年) 活用資料点数	■ 展覧会は実施したか。 ■ 展示以外にどのような活用を行っているか。	

基)	c.企画展示の中期計画立案 5年間の展示計画を立案する。	展示の中期計画立案の有無	■ 市民ニーズに対応した計画になっているか。 ■ 各分野のバランスが取れた計画になっているか。	
③地域学習の支援				
重)	a.多様なイベントの実施 幅広い年齢層を対象とした催事の充実を図る。	イベント実施回数 イベント参加人数	■ ニーズに合ったイベント内容になっているか。	* 重点項目を主にして評価 * 自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
基)	b.出前講座・依頼講座 出前講座などへの講師派遣を継続実施する。	講師派遣回数 (過去5年間の平均値)	■ 積極的に講師派遣を行っているか。	
基)	c.レファレンス業務 レファレンスサービスの充実を図るとともに、内容の分析を行い、展示・普及事業の改善に繋げる。	レファレンス件数 (過去5年間の平均値)	■ レファレンス内容の分析を行っているか。	
④情報発信				
基)	a.ホームページ ホームページを適切に更新する。また、コンテンツの整備を行い、見やすくわかりやすいホームページとする。	アクセス数 (過去5年間の平均値)	■ アクセス数は伸びているか。 ■ 閲覧者のニーズに対応したコンテンツになっているか。	* 重点項目を主にして評価 * 自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
基)	b.ソーシャルメディアの活用 新たな広報手段としてソーシャルメディアの利用する。	フェイスブック投稿回数 (過去5年間の平均値)	■ 投稿回数は指標を目標とする。 ■ 投稿の記事内容や時期は適切か。 ■ 投稿の効果の検証はできているか。	
基)	c.広報の充実 市報・マスメディア・ローカルメディアなど従来の広報を適切に行う。	取材・報道件数 (過去5年間の平均値)	■ 適切な情報提供を行っているか。 ■ 広報の効果の検証はできているか。	

【使命②】市民が参加し、市民文化の向上に寄与すること

市民の視点に立ち、市民が集い、多様な体験を活かしながら博物館活動へ主体的に参加できる博物館とします。また、ボランティアをはじめとする博物館サポーターにより、学校教育や地域住民等との連携を深め市民生活を豊かな潤いのあるものとします。

*重)は5年間で重点的に取り組む項目
*基)は博物館の基本的に行うべき項目

3. 市民と協働し、ともに活動する博物館

目標 市民が主体的に博物館の活動に参加できる市民参画を推進します。市民の視点に立ち、市民が集い、市民の参加を得て、希望や意見を反映させる市民とともに創る博物館をめざします。そのための博物館のサポーターとしてボランティアをはじめとする博物館を支える多様な人材を組織します。

①市民参画と協働

中期活動項目・内容		評価指標	自己評価の視点	外部評価
重)	a.ボランティア活動の支援 ボランティアの活動領域をふやし、その領域に応じた計画的な研修を実施する。	ボランティア参加人数 (過去5年間の平均値) ボランティア活動日数 (過去5年間の平均値)	■ 市民のニーズに沿った活動となっているか。 ■ 計画的な研修は実施できているか。	*重点項目を主にして評価 *自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
重)	b.市民実行委員会による展示事業 夏季展示を中心に市民による展示実行委員を組織し、市民との協働を進める。	実行委員参加人数 (過去5年間の平均値) 実行委員活動日数 (過去5年間の平均値)	■ 市民のニーズに沿った活動となっているか。 ■ 計画的な研修は実施できているか。	
基)	c.アンケートの実施 来館者のニーズを把握するアンケートを引き続き実施、分析し、博物館活動に供する。	アンケート実施件数	■ 回答率に向上はみられるか。 ■ 設問の見直しを図っているか。 ■ アンケート結果の分析はできているか。	
基)	d.博物館事業への市民の参画 講演会や講座の講師、原稿執筆などの市民参画をマネジメントする。	市民講師件数 (過去5年間の平均値) 市民の原稿執筆件数 (過去5年間の平均値)	■ 市民参画は進んでいるか。	
基)	e.市民団体との協働事業 様々な市民団体と連携した事業を実施する。	連携事業件数	■ どのような事業を実施したか。 ■ 事業効果の検証を行っているか。	

②紫金山公園ビジターセンターの建設準備

基)	a.紫金山公園ビジターセンターの建 ボランティアの活動拠点となる紫金山公園ビジターセンターの建設事業を進める。	ビジターセンター建設計画の進捗度	■ 庁内の関係部署と協議を行っているか。	*重点項目を主にして評価 *自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
----	---	------------------	--	---

4. 社会とともに歩む博物館				
目標	学校、児童、生徒の利用を促進するため、小中高校の教職員と連携や利用プログラムの開発を行い、子どもたちが博物館に親しむ機会を増やします。また、博物館のもつ高い専門性や豊かな情報を社会に還元することで、地域のイメージアップや学芸員のスキルアップにつなげ、博物館活動にフィードバックさせます。			
①連携				
重)	a.北大阪ミュージアム・ネットワーク 北大阪ミュージアム・ネットワークの連携事業を進展させる。	事業実施件数	■ どのような事業を実施したか。 ■ 事業効果の検証を行っているか。	* 重点項目を主にして評価 * 自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
基)	b.他機関との連携事業 市内外の公共施設、他の外部機関と展示や講座などで連携事業を行う。	連携事業件数	■ どのような事業を実施したか。 ■ 事業効果の検証を行っているか。	
②学校教育との連携				
	中期活動項目・内容	評価指標	自己評価の視点	外部評価
重)	a.学校教育による利用の促進 授業による館見学、出前授業、連携授業による博物館利用を促進する。また、博物館利用のための教員への研修を実施する。	展示の活用(学校団体見学) 出前授業件数 連携授業件数 教員への研修	■ 学校による博物館利用は進んだか。 ■ 教員への研修を実施したか。	* 重点項目を主にして評価 * 自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。
基)	b.学校教育への支援 教材開発や職場体験の受け入れなど学校教育のカリキュラムに応じた支援を行う。	教材開発 職場体験 高博連携事業	■ 教材開発は行ったか。 ■ 職場体験を受け入れたか。 ■ 吹田高校との連携はできているか。	
③人材育成				
基)	a.実習・研修等の受け入れ 博物館実習・研修・インターンシップを受け入れる。	博物館実習 JICA研修 インターンシップ	■ 実習生・研修生等からの評価はどうであったか。 ■ 実習・研修等の実施で館は何を得たか。	* 重点項目を主にして評価 * 自己評価を含め段階評価または点数評価は行わない。